

読む得! 在宅医療と介護の連携

～身近な事例から～ 第20回

介護老人保健施設の利用

栄養失調で入院していた方が、健康的に自宅で生活できるようになったケース

1人暮らしの男性Aさん(70代)は、自宅で動けなくなっているところを発見・救急搬送され、栄養失調と脱水の診断でそのまま入院しました。

退院時、身体の状態は改善しましたが、自宅で生活するには体力や健康面に不安がありました。そこで、自宅で生活できる状態に回復することを目的に介護老人保健施設に入所し、心身のリハビリテーションや食事、排せつ、入浴、就寝、健康管理など日常生活の介護を受けました。在宅復帰に向けた話し合いの場を何度も持ち、食事や水分摂取、健康管理などについて定期的な訪問が入ることで、1人暮らしでも安心して暮らせることが分かりました。

自宅に戻ってからは、訪問看護や往診、ヘルパーなどの医療・介護保険のサービスを利用して体調を崩すことなく過ごしています。

介護老人保健施設とは

介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅復帰や在宅療養支援などを行う施設です。病院と自宅の間としての役割を担います。「入院はもう必要ないけれど、自宅の暮らしに戻るのはまだ不安」という方にお勧めです。

我孫子市在宅医療介護連携推進協議会 広報部会

☎ 高齢者支援課 ☎ 7185-1112

